

平成30年度 独創的研究助成費 実績報告書

平成31年 3月 29日

報告者	学科名	栄養学科	職名	講師	氏名	都島 梨紗
研究課題	犯罪・非行からの立ち直りに関する国際比較研究に向けた基礎的研究					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	都島 梨紗	岡山県立大・講師	教育社会学	研究遂行者	
研究実績の概要	分担者					
	<p>本研究の目的は、<u>犯罪・非行からの立ち直りにおける日本の特性を明らかにするための、基礎的研究を行うこと</u>であった。浜井(2009)や国際犯罪被害調査が示すように、日本は国際的にみても犯罪被害が少ない。その要因については<u>諸外国の犯罪学者からの注目も高く</u>、日本の犯罪ケースを国際比較の土壌に載せることは学術的に意義のあることである。</p> <p>本研究は、犯罪・非行からの立ち直りを扱う。犯罪・非行からの立ち直りとは、再犯の発生を防ぐ要因を明らかにする研究でもある。本研究を通して、犯罪者および非行少年が社会に包摂されていくプロセスを明らかにし、<u>日本の犯罪被害を予防する要因の一つを、仮説的に示す</u>ことを目指す。</p> <p>本研究では諸外国の犯罪研究の最新の動向を把握するため、<u>バルカン・クリミノロジー主催の犯罪学セミナーに参加した</u>。具体的な方法としては、2018年10月21日から26日の間に行われた「バルカン・クリミノロジー」集中コース(1週間)への参加を行った。なお、コースのプログラムは以下のとおりである。</p>					

※ 次ページに続く

表1：受講した「バルカン・クリミノロジー」集中コースのプログラム

10月22日	AM	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介とセミナーの抱負を共有 コースディレクターによる挨拶 コースの概要について バルカン地域の犯罪学の概要について
	PM	<ul style="list-style-type: none"> アカデミックスキルおよびアカデミック・ライティングについての講義 メンターによる個別セミナー
10月23日	AM	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの常習犯罪予防に関する講義 バルカン地域の非行状況に関する講義
	PM	<ul style="list-style-type: none"> バルカン地域の殺人ケースに関する調査研究についての講義(特にルーマニアについて) 西バルカン地域における重大犯罪防止に関する実践についての講義 受講生による研究報告 メンターによる個別セミナー
10月24日	AM	<ul style="list-style-type: none"> Sicherungsverwahrungにおける受刑者予後に関する専門性についての講義 国際比較犯罪学に向けたデータ収集に関する講義
	PM	<ul style="list-style-type: none"> 被害者学における理論的・方法的インパクトに関する講義 ドゥヴロブニクの文化および歴史に関する実地視察 ムービーナイト(映画「サラエボ」から戦争犯罪について検討する)
10月25日	AM	<ul style="list-style-type: none"> 映画「サラエボ」に関するディスカッションと戦争犯罪に関する講義 Tübingenにおける犯罪予防
	PM	<ul style="list-style-type: none"> コンボにおける刑事訴訟の自立性に関する講義 受講生による研究報告 メンターによる個別セミナー
10月26日	AM	<ul style="list-style-type: none"> 全体の総括とまとめ 修了証明書の授与 コースディレクターによる挨拶
	PM	<ul style="list-style-type: none"> 受講生および講師陣とのディスカッション

研究実績の概要

本コースは Max Planck Institute for Foreign and International Criminal Law と Zagreb Faculty of Law - University of Zagreb/Croatia の共催にて行われる犯罪学セミナーであり、ザグレブ大学学生・院生を中心とする若手研究者や、ルーマニア政府機関やクロアチアの保護観察所、ヨーロッパ国際犯罪予防機関に従事する専門職などが参加した。

本コースに参加したことで日本では研究が薄い分野や領域に関する調査研究手法を学び、また諸外国の刑事司法制度を理解することができた。とりわけ被害者学(Victimology)に関する研究の蓄積は浅く、日本の特性や国際比較の土壌に載せる際に調査研究が不完全であることが明らかとなった。

さらに、英語を主言語とするセミナーであったため、コースに参加したことで英語での研究発表能力を養い、国際学会で登壇・議論をするための基礎能力を養うことができた。

今後の課題としてはセミナーでの経験を踏まえて、Victimology の視点等を取り入れた研究成果を上げ、英語での学術論文投稿および国際学会での学会報告を行うことである。

<引用文献>

浜井浩一, 2009『2円で刑務所, 5億で執行猶予』光文社新書
法務総合研究所研究部報告「犯罪被害実態調査2004/2005」

成果資料目録

Risa Tsushima, 2018, How to stay out of prison? : A case study of woman's life stories in Japan, BALKAN CRIMINOLOGY One-Week International Intensive Course, Dubrovnik, 24. 10. 2018